

論 文

女子大学生におけるお笑い番組接触傾向とユーモア態度

諸井 克英

同志社女子大学
生活科学部・人間生活学科
教授

田村 優奈

同志社女子大学
生活科学部・人間生活学科
2011年度卒業

島崎 真美

同志社女子大学
生活科学部・人間生活学科
2011年度卒業

I. 問題

Martin (2007) によれば、ユーモア現象は、「世界中ですべての文化や個人に生じる普遍的な経験」であるにもかかわらず、次の2つの理由から、心理学研究の主流からは無視されがちであった。つまり、①ユーモアが愉快さや愉悦と関係するために、軽薄で重要度が低いと見なされがちである、②ユーモア現象がつかみ所がない。しかしながら、ユーモア現象は、日常の対人的相互作用において顕現的であることから、実証的研究の重要な対象であるといえる。

上野 (1992; 2003) は、ユーモアを「おかしさ」や「おもしろさ」という心的現象を示すものとして定義し、ユーモアに関する種々の論究を検討した(優越性感情理論、不適合理論など)。この理論的作業に基づき、ユーモア表出に関する次の3類型を提案した。①遊戯的ユーモア(陽気な気分、雰囲気醸し出し、自他を楽しませることを動機づけ)、②攻撃的ユーモア(他者攻撃を動機づけ)、③支援的ユーモア(自他を励まし、自他の心の安寧を図ろうとする動機づけ)。この枠組みに基づき、上野(上野, 1993; 宮戸・上野, 1996) は、3つのユーモアそれぞれに対する好みを測るユーモア態度尺度を開発した。これを契機に、わが国においてもユーモアの心理学的機能に関する実証的研究が盛んになった。たとえば、宮戸・上野(1996)では、支援的ユーモア志向が否定的出来事に対する耐性を高め抑うつ傾向を低下させることが認められた。このような機能は遊戯的ユーモア志向や攻撃的ユーモア志向では現れなかった。

ところで、Martin (2007) は、ユーモアが種々の対人的機能をもつことを指摘した。つまり、ユーモアは対人関係を管理するための個人個人に備わった技能と見なすことが

できる。つまり、ユーモア表出は、対人関係の基本技能によって支えられているのである。Yip & Martin (2006) は、対人関係の営みに関して抱かれる有能性の水準である対人有能性(Buhrmester, Furman, Wittenberg, & Reis, 1988; 諸井・浅野・伊藤・伊藤・渡邊, 1999; 諸井, 2002)と、ユーモア表出の個人的スタイル(Martin, Puhik-Doris, Larsen, Gray, & Weir, 2003)との関連について男女大学生を対象として検討した。「親和的ユーモア(関係の親密化や緊張軽減)」と「自己高揚的ユーモア(困難時にも自己の展望を維持)」は、「開始」と「開示」で有意な正の相関、「攻撃的ユーモア(他者に対する非難や支配)」は「情動的支援」と「コンフリクト処理」で有意な負の相関、「自虐的ユーモア(自己を犠牲にした他者による受容)」は「否定的主張」と有意な負の相関をそれぞれ示した。また、谷・大坊(2008)は、男女大学生を対象とし、ユーモアの支援的側面と一般的な社会的スキルとの間に有意な正の相関があることを認めた。つまり、これらの研究は、ユーモア表出の基底に対人関係を営むための技能が存在しており、弁別関係があることを示唆する。本研究では、以下の仮説を導いた。

仮説 I: ユーモア志向の側面によって、対人有能性との関係が異なる。

本研究では、ユーモア志向の問題をテレビ視聴行動と関連づける。まず、わが国におけるテレビ視聴の動向に注目すると(NHK「日本人とテレビ・2010」調査)、「テレビに(毎日)接触する人」はこの四半世紀では90%を超えており(平田・諸藤・荒牧, 2010)、日常生活でのテレビ視聴行動の重要性を確認できる。ただし、若者層(16-29歳)では10年では82%に低下しているが(平田ら, 2010)、インターネット動画サイト視聴の増加と関連している(平田, 2010)。

全国調査(NHK「テレビ50年調査」)の結果から年代別にテレビ視聴形式の特徴を捉えた牧田(2005)によれば、「25歳未満・学生・無職・未婚」に属する者が「エンター

テインメント系番組を中心」にテレビを享受していることを指摘した。牧田は、この原因を若者にとって「虚構情報世界」で遊ぶことが生活の重要な要素であるためと解釈した。また、小川（2005）によれば、テレビと受け手との間に「擬似的社会関係」が創出され、とりわけ若年層ではテレビ存在の「身体化」特徴が見られる。

以上に示したテレビ視聴動向研究から、若者にとってテレビ視聴が依然として重要な行動であると判断できる。さらに、平田（2010; NHK「日本人とテレビ・2010」調査）によれば、テレビの効用として「人とつきあうときの話のタネが得られる」という回答は国民全体では75%であるのに、若者（16-29歳）に限定すると90%に達する。つまり、彼らは、テレビ視聴自体に直接的意味を見いだしているのではなく、対人コミュニケーションのネタ獲得を意図しているのである。これは、ザッピング視聴により促進される（牧田，2005）。

最近のお笑い番組の動向を考察した影山（2008）は、「瞬間芸」の増加と社会全体での積み重ねを軽視する傾向との連関を指摘した。つまり「起承転結」の軽視がお笑い番組の世界と生活社会双方に認められる。平田（2010）の指摘や影山（2008）の論点を拡大すれば、本来は虚構であるはずのお笑い番組が対人関係の絆維持の目的にとって有益な情報要素として生活世界と融合しているのである。

以上のことを踏まえ、本研究ではユーモア志向がテレビ視聴行動におよぼす影響を検討した。

仮説Ⅱ: ユーモア志向の側面によって、視聴されているお笑い番組は異なる。

これらの2つの仮説を検討するために、女子大学生を対象とする質問紙調査を実施した。Martin（2007）によれば、ユーモアに関する一貫した男女差は抽出されない。しかし、一般的に男性に比べ女性のほうでコミュニケーション重視傾向が強い。たとえば、斎藤・中村（1987）は男子学生よりも女子学生のほうで対人的応答性や感性を意味する対人的志向性が高いことを見いだした。つまり、女性のほうが対人関係の円滑化のためのネタ探しを行うと思われ（平田，2010）、ユーモア志向性に動機づけられたお笑い番組嗜好が女性のほうで顕著であると推測される。以上のことを勘案して、本研究では研究の出発点として女子大学生を対象にした。

Ⅱ. 方法

調査対象および調査の実施

同志社女子大学での社会心理学関係の講義を利用して、『テレビ視聴行動』調査の名目で質問紙調査を実施した（2011年7月11日）。回答にあたっては匿名性を保証し、質問紙実施後に研究目的と意義を簡潔に説明した。

青年期の範囲を逸脱している者（25歳以上）を除き、各尺度に完全回答した女子学生424名を分析対象とした（1年生202名、2年生19名、3年生185名、4年生18名）。回答者の平均年齢は19.41歳（SD = 1.18, 18~23歳）であった。

質問紙の構成

質問紙は、回答者の基本的属性に加え、①対人有能性尺度、②ユーモア態度尺度、③お笑い番組接触傾向尺度から構成されている。

1. 対人有能性尺度

本研究では、回答者の対人有能性を測定するために、Buhrmester *et al.*（1988）が開発した対人有能性質問紙（ICQ）を利用した。対人有能性とは、対人関係の営みに関して抱かれる有能性の水準を示す。Buhrmester *et al.* は、5つの対人課題領域（開始、否定的主張、開示、情動的支援、コンフリクト処理）を設定し、各領域に8項目が含まれる対人有能性質問紙を作成した。諸井ら（1999）は、短大に通う女子学生を対象として、同性関係と異性関係に分けて対人有能性を測定した。主成分分析を用いて、対同性、対異性関係ともにBuhrmester *et al.* の設定した5領域に対応した主成分を抽出した。本研究では、対同性版を実施した（諸井ら，1999; Table 1-a 参照）。

この6カ月間における同性の人に対する日ごろの接し方を思い浮かべてもらい、40項目それぞれに4点尺度で回答させた（“4. かなり得意である”～“1. かなり苦手である”）。対人有能性が高いほど高得点になるようにした。

2. ユーモア態度尺度

回答者がユーモアに対して日ごろどのような態度を抱いているかを測定するために、上野（1993）と宮戸・上野（1996）が作成したユーモア態度尺度を利用した。この尺度は、「攻撃的ユーモア志向」、「遊戯的ユーモア志向」、および「支援的ユーモア志向」を表す各8項目から構成されている。本研究では、これら24項目について文意を損なわないように若干修正した（Table 1-b, Appendix 1）。

この6カ月間の回答者の生活を思い浮かべてもらい、それぞれの項目内容が自分自身にあてはまる程度を4点尺度

で回答させた(“4. かなりあてはまる”～“1. ほとんどあてはまらない”)

3. お笑い番組接触傾向尺度

ここでは、回答者がどのようなお笑い番組を視聴したかを調べた。ところで、わが国のテレビにおけるバラエティ番組の盛衰を内側から描いた佐藤(2011)によれば、音楽と笑いの融合によって一つのプロトタイプとなった『夢で逢いましょう』(NHK, '61~'66年放映)のように、どのような要素を笑いと合成していくかが番組の成否につながる。このような動向を踏まえ、純粋なお笑い番組だけでなく、お笑い要素を含むバラエティ番組も取り上げた。

関西地域の主なテレビ局に限定して、'11年6月時点の番組表に基づきお笑い要素を含んだ番組を抽出した。その結果、174番組が同定された(読売テレビ37番組、毎日放送35番組、朝日放送40番組、関西テレビ32番組、テレビ大阪18番組、NHK 総合12項目)。

テレビ局と曜日・放映時間別に番組表を作成し、回答者にこの6カ月間に各番組を見たことがあるかを尋ねた。視聴経験がある場合(ここでは「放送時間の半分以上の視聴」とした)には番組名の横に○印を記入させた。

なお、以上の3尺度では、評定順の効果を相殺するために、評定用紙をそれぞれ頁単位(対人有能性尺度4頁、ユーモア態度尺度3頁、お笑い番組接触傾向尺度2頁)でランダムに並び替えた。

III. 結果

対人有能性およびユーモア態度の基本的構造

対人有能性およびユーモア態度の基本的構造を確認するために主成分分析(プロマックス回転($k=3$))を行った。尺度全項目について、項目平均値の偏り($1.5 < m < 3.5$)と標準偏差値($SD > .60$)のチェックを行ったがすべての項目が適切であった。対人有能性尺度では先行研究(Buhrmester *et al.*, 1988; 諸井ら, 1999)に従い5主成分分解を求め、ユーモア態度尺度では先行研究(上野, 1993; 宮戸・上野, 1996)を踏まえ3主成分分解を検討した。①特定主成分の負荷量が十分に大きく($\geq |.400|$)、②他主成分への負荷が小さい($< |.400|$)という基準に一致しない項目を除き再度分析を行い、明確な負荷量パターンが得られるまで、このことを繰り返した。最終的分析に基づき主成分得点を算出した(回帰法)。

1. 対人有能性

40項目を対象にした5主成分分解では先行研究と一致した

項目の負荷が高い主成分が現れた。最終の結果を Table 1-a に示す。各主成分名は、先行研究に従い(諸井ら, 1999)、「否定的主張」、「情動的支援」、「開始」、「コンフリクト処理」、および「開示」と名づけた。

2. ユーモア態度

上野ら(上野, 1993; 宮戸・上野, 1996)は尺度の3側面に関する因子的妥当性を吟味していない。本研究で3主成分分解を求めたところ、想定されたユーモア志向を表す主成分が抽出された。最終結果を Table 1-b に示す。上野らの分類に従い、各主成分を「支援的ユーモア志向」、「攻撃的ユーモア志向」、「遊戯的ユーモア志向」とした。なお、hum_b_3はもともと支援項目に設定されていたが、「遊戯的ユーモア志向」に高い負荷を見せた。しかし、ここでは「人を救う」という意味が場を和ませると解釈されたと考えた。

3. 対人有能性とユーモア態度との関係

対人有能性5側面とユーモア態度3側面との間のピアソン相関値を求めた。結果を Table 1-c に示す。次の特徴的傾向が認められた。全体的に有意な正の相関傾向が現れた。とりわけ、支援的ユーモア志向は、対人有能性の5側面すべてと有意な正の関係を見せた。また、攻撃的ユーモア志向とコンフリクト処理との間でのみ有意な負の相関値が得られた。

お笑い番組接触傾向の基本的構造

174番組の視聴の基底にある基本的構造を探索するために、次のような手続きで林の数量化Ⅲ類の分析を行った。回答者に提示した番組のうち半数近くで回答者の20%未満しか視聴していなかった。林の数量化Ⅲ類の分析では、分布に極端な偏りをもつ変数が含まれていると、カテゴリースコアの「飛びはね」が生じることがある。そこで、この問題を回避するために、視聴度が20%未満の番組をあらかじめ除去し、残りの62番組を対象に林の数量化Ⅲ類の分析を行った。固有値の推移から第Ⅰ軸のみが有意であると判断した。結果を Table 2 に示す。

カテゴリースコアを見ると、この第Ⅰ軸はお笑い番組の視聴有無を表していた。本分析では、サンプルスコアを求め、お笑い番組接触傾向得点とした。この得点が高いほど、お笑い番組をよく視聴していることになる。

お笑い番組接触傾向と個人的傾性との関連

お笑い番組接触傾向と対人有能性やユーモア態度との関連を検討するために、ピアソン相関分析、重回帰分析、および共分散構造分析を試みた。

Table 1-a 対人有能性尺度に関する主成分分析（プロマックス回転 $k=3$ ）の結果—回転後の負荷量—

	I	II	III	IV	V
〔I. 否定的主張〕					
ic_a_2 あなたに対する接し方が気に入らないと、そのことを相手に告げる。	.607	-.048	-.055	.023	.235
ic_a_7 あなたがやりたくないことをして欲しいと知り合いに頼まれたとき、「いやだ」と断る。	.650	.077	-.144	-.058	.032
ic_b_2 相手の不当な要求を断る。	.629	.075	.013	-.134	-.083
ic_b_7 相手があなたを無視したり思いやりに欠けると、その相手を責める。	.563	-.084	.095	-.079	.017
ic_c_2 相手があなたを困らせることをしていると、その相手に告げる。	.715	.013	.092	.058	.016
ic_c_7 相手が約束を破ったときは、その相手を問いつめる。	.668	.060	-.080	-.024	-.066
ic_d_2 相手があなたの気持ちを傷つけたと、その相手に告げる。	.717	-.057	.070	.043	.045
ic_d_7 相手があなたを怒らせることをしたと、その相手に告げる。	.702	-.013	.139	.030	-.070
〔II. 情動的支援〕					
ic_a_4 親しい友だちが人生の重大な決断（たとえば、職業選択や結婚など）をするのを、助けてあげる。	-.033	.667	.017	-.042	.081
ic_b_4 親しい友だちが直面している問題の核心や要点をつかむことができるように、助けてあげる。	.056	.741	-.154	.064	.091
ic_b_9 親しい友だちが家族や友人関係に関する問題を解決するのを、助けてあげる。	.036	.705	-.019	-.015	.130
ic_c_4 友だちが取り乱しているときでも、真剣に耳を傾けてあげる。	-.002	.614	.046	.035	-.069
ic_c_9 親しい友だちの気分が沈んでいるとき、言葉をかけたり、何かしてあげたりする。	-.128	.674	.207	-.065	-.059
ic_d_4 友だちが抱えている問題にあなたに関心がないときでも、本当にその友だちの立場に立った気遣いを見せる。	-.071	.426	.152	.204	-.217
ic_d_9 親しい友だちが何か援助を必要としているとき、アドバイスを与えてあげる。	.132	.763	.024	-.068	-.116
〔III. 開始〕					
ic_a_1 新しく知り合った人に、一緒に何かしないかと提案する。	.021	.143	.533	-.110	.211
ic_a_6 新しく知り合った人と一緒にできることを見つめる。	-.076	.147	.612	.034	.163
ic_b_1 知り合いになりたいと思う人に話しかける。	.138	-.054	.726	-.073	.012
ic_b_6 新しく知り合った人が楽しくなるような行動をとってあげる。	-.075	.292	.511	.002	.077
ic_c_1 あなたが知り合いになりたいと思う人に、自己紹介をする。	.048	-.055	.700	.006	.105
ic_c_6 新しく知り合った人に、一緒に何かしないかと、電話をかける。	.143	-.141	.516	.120	.139
ic_d_1 あなたが友だちになりたいと思う人の前で、第一印象をよくしようとする。	.116	.058	.579	.250	-.290
ic_d_6 友だちをつくるために、パーティーや集まりに参加する。	-.124	.015	.635	-.034	.041
〔IV. コンフリクト処理〕					
ic_a_5 親しい友だちと大きなさかいになり始めたとき、自分のほうが悪かったと認める。	-.086	.038	.025	.602	.161
ic_a_10 親しい友だちとけんかをしているとき、その友だちに対する不満を心の隅にしまう。	-.092	-.124	.015	.682	.046
ic_b_5 親しい友だちと争いになったときでも、その友だちの不満に心から耳を傾けてあげる。	.028	.329	-.145	.540	.158
ic_b_10 けんかをしているときでも、友だちの立場に立って、その友だちの意見を本当に理解する。	.184	.240	-.119	.538	.121
ic_c_5 大きな争いになりそうなことについては、言うことを控える。	-.014	-.033	.079	.591	-.196
ic_d_5 友だちと考え方が一致しなくても、その友だちが妥当な考え方をしていると認める。	.031	.074	.097	.419	-.111
ic_d_10 大きな争いを避けるために、親しい友だちに対して感情を爆発させない。	-.109	-.134	.012	.628	-.041
〔V. 開示〕					
ic_a_3 知り合ったばかりの人と話をしているときに、あなた自身の内密なことをもらす。	.090	-.216	.072	-.007	.696
ic_a_8 新しい友だちを信頼して、あなたの弱いところや傷つきやすいところを見せる。	.017	-.053	.048	.098	.757
ic_b_3 あなたが恥ずかしいと思っている自分に関する部分を、親しい友だちに話す。	-.001	.067	-.007	-.035	.610
ic_b_8 「本当のあなた」を新しい友だちに知ってもらおう。	-.043	.085	.239	-.050	.574
ic_c_8 あなたの心の中の不安や恐れていることを、親しい友だちに話す。	-.056	.193	.111	-.035	.488
〔主成分間相関〕					
	I	.165	.282	-.113	.354
	II		.364	.262	.214
	III			.107	.341
	IV				.025

N = 424

初期固有値 > 1.475; 初期説明率46.47%

Table 1-b ユーモア態度尺度に関する主成分分析（プロマックス回転 〈 $k=3$ 〉）の結果—回転後の負荷量—

		I	II	III
〔I. 支援的ユーモア志向〕				
hum_b_6	私は、嫌なことがあっても笑い飛ばせる。	支 .735	.120	-.245
hum_c_3	私は、まわりの人が喧嘩を始めそうなとき、ユーモアを使って仲をとりもつ。	支 .695	-.035	.087
hum_a_3	私は、ちょっと寂しそうな人がまわりにいると冗談を言って笑わせたい。	支 .684	-.055	.187
hum_c_6	私は、気が滅入るようなときでもユーモアで自分自身を励ます。	支 .681	.105	-.084
hum_a_9	私は、友だちを励ますために笑わせようとする。	支 .673	-.017	.213
〔II. 攻撃的ユーモア志向〕				
hum_a_1	私は、笑いには多少毒があったほうが面白いと思う。	攻 .042	.749	-.079
hum_a_4	私は、友だちのことを軽く皮肉ったりして楽しむことがある。	攻 .174	.727	-.110
hum_b_1	私は、ブラックユーモア〈不安・不吉・残酷さ・無気味さを感じさせるユーモア〉が好きだ。	攻 -.289	.684	.150
hum_a_7	私は、過激な冗談が好きだ。	攻 .205	.641	.029
hum_b_7	私は、変わっている知人の話をよく笑いのネタにする。	攻 .054	.538	.285
〔III. 遊戯的ユーモア志向〕				
hum_b_8	私は、人間臭さのある笑い話や、ユーモアが好きだ。	遊 -.015	.217	.649
hum_b_5	私は、ささやかな日常を面白く描いた漫画が好きだ。	遊 .012	-.051	.643
hum_b_3	私は、人を救うようなユーモアが好きだ。	支 .244	-.154	.614
hum_c_2	私は、ドタバタな漫画やお笑い番組が好きだ。	遊 .109	.010	.537
hum_c_5	私は、もっと笑いたいなと思うことがある。	遊 -.226	.133	.436
〔主成分間相関〕		I	.246	.339
		II		.175

N = 424

初期固有値 > 1.374; 初期説明率48.45%

先行研究（上野, 1993; 宮戸・上野, 1996）

支: 支援的ユーモア志向項目; 攻: 攻撃的ユーモア志向項目; 遊: 遊戯的ユーモア志向項目

Table 1-c 対同性有能性とユーモア態度との関係—主成分得点間のピアソン相関値—

	〔ユーモア態度〕		
	支援的ユーモア志向	攻撃的ユーモア志向	遊戯的ユーモア志向
〔対同性有能性〕			
否定的主張	.219 $p = .001$.228 $p = .001$	-.023
情動的支援	.326 $p = .001$	-.026	.196 $p = .001$
開始	.442 $p = .001$.118 $p = .015$.154 $p = .002$
コンフリクト処理	.151 $p = .002$	-.123 $p = .011$.106 $p = .029$
開示	.320 $p = .001$.191 $p = .001$.080

N = 424

Table 2 お笑い番組接触傾向に関する林の数量化Ⅲ類の結果－カテゴリースコア－

* 番組名	アイテム	N	カテゴリースコア	* 番組名	アイテム	N	カテゴリースコア
Qさま	No	242	-0.733	ブラマヨ衝撃ファイル 世界のコワ〜イ女たち	No	309	-0.632
	Yes	182	0.975		Yes	115	1.697
⑧ ロンドンハーツ	No	217	-0.928	リンカーン	No	240	-0.962
	Yes	207	0.973		Yes	184	1.255
『ぶっ』すま	No	316	-0.524	② ひみつの嵐ちゃん!	No	161	-1.407
	Yes	108	1.533		Yes	263	0.861
今ちゃんの『実は…』	No	303	-0.576	ロケみつ ~ロケ×ロケ× ロケ~	No	285	-0.540
	Yes	121	1.443		Yes	139	1.108
シルシルミシル	No	286	-0.578	びったんこカン・カン	No	335	-0.434
	Yes	138	1.197		Yes	89	1.632
いきなり!黄金伝説。	No	273	-0.758	中居正広の金曜日のスマタ ちへ	No	316	-0.622
	Yes	151	1.370		Yes	108	1.819
ビーバップ!ハイヒール	No	310	-0.435	A-Studio	No	302	-0.569
	Yes	114	1.183		Yes	122	1.408
⑦ アメトーク!	No	208	-1.159	よしもと新喜劇	No	292	-0.608
	Yes	216	1.116		Yes	132	1.346
探偵!ナイトスクープ	No	229	-0.869	サンデー・ジャポン	No	356	-0.377
	Yes	195	1.021		Yes	68	1.972
ナニコレ珍百景	No	333	-0.482	さんまのスーパーからくり TV	No	294	-0.659
	Yes	91	1.765		Yes	130	1.489
SmaSTATION	No	326	-0.484	EXILE 魂	No	302	-0.523
	Yes	98	1.609		Yes	122	1.294
笑っていいとも	No	223	-1.213	世界まる見え!テレビ特捜 部	No	321	-0.437
	Yes	201	1.346		Yes	103	1.363
冒険チュートリアル	No	309	-0.694	人生が変わる2分間の深 イイ話	No	283	-0.838
	Yes	115	1.865		Yes	141	1.682
HEYHEYHEY	No	239	-0.892	① シャベくり007	No	126	-1.467
	Yes	185	1.152		Yes	298	0.620
⑧ SMAP × SMAP	No	217	-1.013	東野・岡村の旅猿	No	329	-0.472
	Yes	207	1.062		Yes	95	1.634
ほこ×たて~世界で誰も見 たことがない対決ショー	No	276	-0.682	ヒルナンデス	No	338	-0.422
	Yes	148	1.271		Yes	86	1.658
クイズ!ヘキサゴンII	No	293	-0.798	踊る!さんま御殿!!	No	260	-0.906
	Yes	131	1.785		Yes	164	1.436
はねるのトビら	No	252	-1.001	コレってアリですか?	No	302	-0.577
	Yes	172	1.466		Yes	122	1.429
④ ほんまっでか!? TV	No	185	-1.189	ザ!世界仰天ニュース	No	223	-0.878
	Yes	239	0.920		Yes	201	0.974
ザ・ベストハウス124	No	254	-0.874	ダウンタウンのガキの使い やあらへんで!!	No	283	-0.679
	Yes	170	1.306		Yes	141	1.364
⑥ グータンヌーボ	No	200	-1.210	ぐるぐるナイティナイン	No	259	-0.931
	Yes	224	1.081		Yes	165	1.461
とんねるずのみなさんのお かけでした	No	285	-0.753	カミングアウト 秘密のケ ンミンSHOW	No	292	-0.759
	Yes	139	1.543		Yes	132	1.679
5LDK	No	300	-0.503	ダウンタウン DX	No	270	-0.841
	Yes	124	1.218		Yes	154	1.474
仁志松本の〇〇な話	No	248	-0.861	天才!志村どうぶつ園	No	279	-0.624
	Yes	176	1.214		Yes	145	1.202
さんまのまんま	No	330	-0.627	世界一受けたい授業	No	288	-0.543
	Yes	94	2.202		Yes	136	1.149
⑤ めちゃ2イケてるッ!	No	194	-1.203	③ 嵐にしやがれ	No	177	-1.169
	Yes	230	1.015		Yes	247	0.838
ネプリーグ	No	256	-0.862	週末のシンデレラ世界!弾 丸トラベラー	No	310	-0.585
	Yes	168	1.314		Yes	114	1.592
お笑いワイドショーマルコ ポロリ!	No	328	-0.604	ザ!鉄腕!DASH!!	No	336	-0.422
	Yes	96	2.063		Yes	88	1.612
爆笑!大日本アカン警察	No	306	-0.581	世界の果てまでイッテQ!	No	250	-0.711
	Yes	118	1.507		Yes	174	1.022
新堂本兄弟	No	255	-0.875	行列のできる法律相談所	No	285	-0.826
	Yes	169	1.321		Yes	139	1.693
痛快!明石家テレビ	No	321	-0.518	⑩ おしゃれイズム	No	222	-1.162
	Yes	103	1.615		Yes	202	1.277
固有値							0.243

N = 424

固有値の推移: II .045, III .038

太文字の番組名: カテゴリースコア > 1.500

Yes: ○印記入; No: 無記入

*: 本サンプルにおける接触率上位10

(なお、視聴度の偏りのために除去された番組で高視聴度の番組はない)

Table 3-a お笑い番組接触傾向と対同性有能性およびユーモア態度との関係—数量化得点および主成分得点間のピアソ相関値—

お笑い番組接触傾向	
〔対同性有能性〕	
否定的主張	-.010
情動的支援	.015
開始	.084
コンフリクト処理	.024
開示	.003
〔ユーモア態度〕	
支援的ユーモア志向	.151 $p = .002$
攻撃的ユーモア志向	.109 $p = .024$
遊戯的ユーモア志向	.136 $p = .005$

N = 424

Table 3-b お笑い番組接触傾向と対人有能性およびユーモア態度との関係—重回帰分析（ステップワイズ法）—

標準化偏回帰係数		
〔分析Ⅰ〕説明変数: 対人有能性5主成分得点, ユーモア態度5主成分得点		
従属変数: お笑い番組接触傾向		
支援的ユーモア志向	.151	$p = .002$
	$R^2 = .023$	$p = .002$
〔分析Ⅱ〕説明変数: 対人有能性5主成分得点		
従属変数: 支援的ユーモア志向		
開始	.320	$p = .001$
開示	.173	$p = .001$
情動的支援	.173	$p = .001$
	$R^2 = .254$	$p = .001$
従属変数: 攻撃的ユーモア志向		
否定的主張	.168	$p = .001$
開示	.134	$p = .008$
コンフリクト処理	-.108	$p = .023$
	$R^2 = .077$	$p = .001$
従属変数: 遊戯的ユーモア志向		
情動的支援	.196	$p = .001$
	$R^2 = .038$	$p = .001$

N = 424

ステップワイズ法（投入基準 $p < .05$; 除去基準 $p > .10$ ）

1. ピアソン相関分析

Table 3-a から分かるように、対人有能性のどの側面もお笑い番組接触傾向と無関係であった。しかし、ユーモア態度3側面はいずれもお笑い番組接触傾向との間に正の有意な相関を示した。

2. 重回帰分析

「対人有能性→ユーモア態度→お笑い番組接触傾向」の影響経路を仮定し、次の2通りの重回帰分析（ステップワイズ法〈投入基準 $p < .05$; 除去基準 $p > .05$ 〉）を実施した。①対人有能性5主成分得点とユーモア態度3主成分得点を説明変数とし、お笑い番組接触傾向得点を従属変数とする分析〈分析Ⅰ〉、②対人有能性5主成分得点を説明変数とし、ユーモア態度3主成分得点をそれぞれ従属変数とする分析〈分析Ⅱ〉。一連の結果を Table 3-b に表す。

分析Ⅰの結果は、仮説Ⅱと一致して、支援的ユーモア志向がお笑い番組の視聴の重要な規定因であることを示した。分析Ⅱでは、ユーモア態度3側面と対人有能性5側面の弁別関係が明らかになり、仮説Ⅰが支持された。支援的ユーモア志向は対人関係の形成・維持にとりわけ重要である対人有能性3側面（開始、開示、情動的支援）に

有意に規定されていた。また、遊戯的ユーモア志向では、心の支えに関する側面（情動的支援）とのみ有意な関係があった。対照的に、攻撃的ユーモア志向は、開示に加え、対人関係危機につながる有能性の側面（否定的主張、コンフリクト処理）と有意な関連を見せた。

3. 共分散構造分析

Amos18.0 を用いて「対人有能性→ユーモア態度→お笑い番組接触傾向」の因果図式の検討を行った。重回帰分析の結果に基づきモデルを作成し、観測変数の構造方程式（最尤推定法; 豊田, 1998）の分析を試みた。修正指数を参照しながらパスの設定を変え、モデル適合度を改善し、最終モデルを得た (Fig. 1)。

「〈情動的支援, 開始, 開示〉→〈支援的ユーモア志向〉→〈お笑い番組接触傾向〉」の影響経路が抽出された。遊戯的ユーモア志向や攻撃的ユーモア志向はお笑い番組接触傾向への影響が認められなかったが、重回帰分析の結果と同様に対人有能性との弁別的影響を示した。

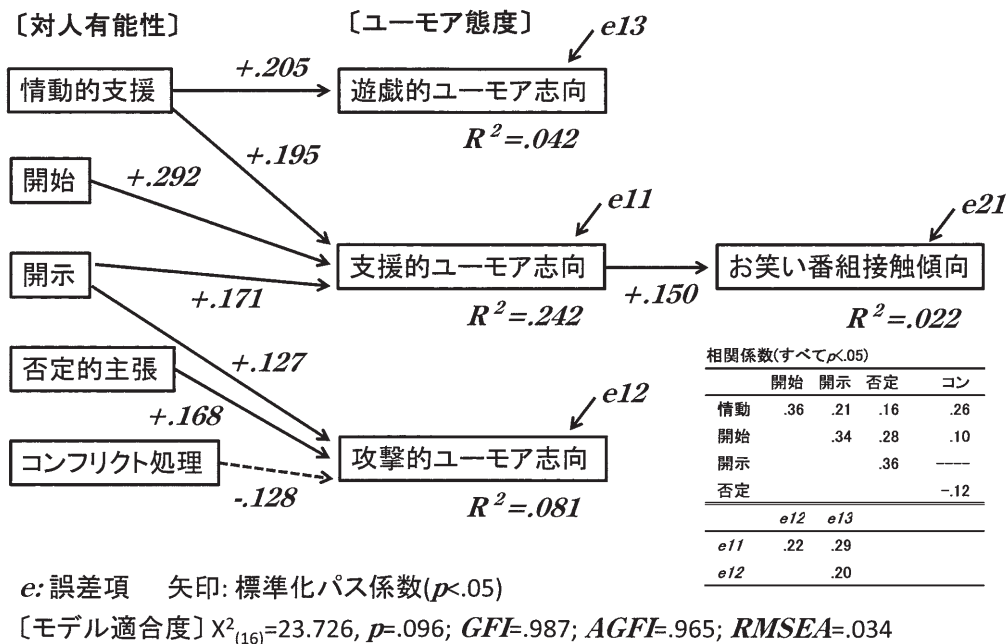


Fig.1 お笑い番組接触傾向におよぼす個人的傾性の影響
 一観測変数の構造方程式 (Amos18.0, 最尤法) による因果分析 (N = 424) 一

IV. 考察

本研究では、近年実証的研究が盛んになったユーモア態度を中心に、対人有能性やお笑い番組への接触傾向との関連を検討した。その結果、Fig.1にも描いたようにユーモア態度3側面の弁別の特徴を得ることができた。

ユーモア態度測定のために、上野ら(上野, 1993; 宮戸・上野, 1996)が作成したユーモア態度尺度を利用した。主成分分析の結果によれば、上野(1992)の枠組み通りに、「支援的ユーモア志向」、「攻撃的ユーモア志向」、および「遊戯的ユーモア志向」の3側面が抽出された。

ところで、Martin *et al.* (2003)は、ユーモアを「自己高揚-他者との関係高揚」と「善意で慈悲深い-有害で傷つける」という2次元上で捉え、32項目から成るユーモアスタイル尺度を開発した。Martin *et al.*は、主成分分析や確認的因子分析によって、この尺度が仮定通りに、①親和的ユーモア、②自己高揚的ユーモア、③攻撃的ユーモア、④自虐的ユーモアの4側面から構成されることを示した。塚原・樋口・深田(2009)も、ユーモア表出を「他者あるいは自己に対して、意図的にユーモアを生起させるためにユーモア刺激を表出する言動」と定義し、①攻撃的ユーモア表出、②自虐的ユーモア表出、③遊戯的ユーモア表出の3側面を測る尺度を作成した。また、牧野(1997)は、コミュニケーション過程における表出と受容の観点からユー

モアの表出と感知を区別した尺度を提唱した。

このように研究によりユーモアを構成する側面に差異があることは尺度構成の方法によるといえる。たとえば、上野ら(上野, 1993; 宮戸・上野, 1996)は帰納法的に、Martin *et al.* (2003)は仮説演繹的に尺度項目を設定している。本研究では、上野らに従ってユーモア態度の検討を行ったが、ユーモア概念の洗練化を今後行う必要があるといえよう。

次に、お笑い番組接触傾向の基本的構造について触れる。本研究では、特定時期('11年6月)に関西地域で放映されている番組から笑い要素を含んだ174番組を抽出した。この番組の視聴経験を尋ね、接触率20%以上の62番組を対象に数量化Ⅲ類による分析を行った。しかしながら、お笑い番組の視聴有無を表す第Ⅰ軸のみが有意であり、期待された番組接触の多次元性は認められなかった。

ところで、'11年6月にNHKにより実施された「番組総合調査」(関東地区)での「視聴経験率上位10番組」を見ると(中野・深田, 2012)、本研究での接触率20%以上の番組には「天才!志村どうぶつ園」と「ネプリーグ」しか含まれていない。しかしながら、「くつろげる・リラックスできる」番組10位には、7番組(「新堂本兄弟」、「東野・岡村の旅猿」、「踊る!さんま御殿!!」、「SMAP×SMAP」、「おしゃれイズム」、「5LDK」、「ぴったんこカン・カン」)が入っている。つまり、若者によるテレビ視

聴の意図が先述した対人コミュニケーションのネタ獲得にあるとすれば(平田, 2010), 影山(2008)が指摘しているように, そこでは番組固有の「起承転結」の組み立てではなく(あるいは感知されず), ネタ要素の同定と対人コミュニケーションでの活用可能性の判断が中心となる。このために, 女子大学生を対象とした本研究では, お笑い番組の多次元性が抽出されなかったのかもしれない。いずれにせよ, この問題には, お笑い番組固有の組み立てを検討する作業が必要といえよう。

「対人有能性→ユーモア態度→お笑い番組接触傾向」の影響経路を仮定に基づき, 重回帰分析や共分散構造分析による検討を行った。「対人有能性→ユーモア態度」に関する分析結果によると, 弁別的関係が示され仮説Ⅰが支持された。とりわけ, 対人関係の形成・維持に重要な対人有能性3側面(開始, 開示, 情動的支援)が支援的ユーモア志向に関わっていた。これは, 対人関係の親密化のための道具としてユーモア機能のうちの支援的側面が活用されていることを示唆する。

仮説Ⅱについても, 他の2志向に比べ支援的ユーモア志向がお笑い番組接触傾向と密接な関連を見せた。二者関係を維持する道具としての支援的ユーモア志向性は先述したようにお笑い番組でのネタ探し(平田, 2010)に向かわせるのである。

とりわけ, 本研究では, 観測変数の構造方程式の分析によって「〈情動的支援, 開始, 開示〉→〈支援的ユーモア志向〉→〈お笑い番組接触傾向〉」の影響経路を認めることができた。お笑い番組視聴に対する遊戯的ユーモア志向や攻撃的ユーモア志向の影響がなかったが, このことは, お笑い番組視聴における多次元性抽出についての本研究の「失敗」に関わる。つまり, ユーモア志向の側面ごとに嗜好されるテレビ番組が存在する可能性があるからである。

以上に述べたように, ユーモア態度を中心として対人有能性やお笑い番組への接触傾向との関連を検討した本研究の目的は一応達成された。しかしながら, ①ユーモア態度の基本的構造の再検討や, ②本研究で最終目的変数として設定したテレビ番組視聴の基本的構造の再吟味など, 今後取り組むべき課題は残されている。①については, コミュニケーションの枠組みの中でユーモアを捉えていく作業をすべきであるし, 個人的傾性としてのユーモア態度だけでなく, ユーモア表出の動機的側面も扱うべきであろう(塚原・越・樋口・深田, 2009)。②では, 個人生活にとってのテレビの役割に関する歴史的変容を捉える中で, ユーモアとの関連づけ作業にも取り組むべきである。

〈付記〉

- (1) 本研究は, 田村優奈(第2著者)と島崎真美(第3著者)(同志社女子大学・生活科学部人間生活学科2011年度卒業)が第1著者の下で卒業研究のために収集したデータに基づいている。
- (2) データの統計的解析にあたって, *IBM SPSS Statistics version 20.0.0 for Windows, Amos18.0*, および数量化理論GUI版プログラム2.1.0を利用した。
- (3) E-Mail: *kmoroi@dwc.doshisha.ac.jp*

V. 引用文献

- Buhrmester, D., Furman, W., Wittenberg, M.T., & Reis, H.T. 1988 Five domains of interpersonal competence in peer relationships. *Journal of Personality and Social Psychology*, 55, 991-1008.
- 平田明裕 2010 若者はテレビをどう位置づけているのか—若者のテレビ視聴とメディア利用・「日本人とテレビ・2010」調査から— 放送研究と調査, 60(12), 2-11.
- 平田明裕・諸藤絵美・荒牧 央 2010 テレビ視聴とメディア利用の現在(2)—「日本人とテレビ・2010」調査から— 放送研究と調査, 60(10), 2-27.
- 影山貴彦 2008 ブームとしてのお笑い番組の考察から教育メディア研究, 15(1), 91-95.
- 牧野幸志 1997 ユーモア行動の構造に関する研究 広島大学教育学部紀要第一部(心理学), 46, 41-48.
- 牧田徹雄 2005 テレビ視聴の変容 田中義久・小川文弥(編)『テレビと日本人—「テレビ50年」と生活・文化・意識—』法政大学出版社 3-32頁
- Martin, R.A., Puhik-Doris, P., Larsen, G., Gray, J., & Weir, K. 2003 Individual differences in uses of humor and their relation to psychological well-being: Development of the Humor Styles Questionnaire. *Journal of Research in Personality*, 37, 48-75.
- Martin, R.A. 2007 *The psychology of humor: An integrative approach*. Elsevier Inc. 野村亮太・雨宮俊彦・丸野俊一(監訳)『ユーモア心理学ハンドブック』2011 北大路書房
- 諸井克英 2002 若者の対人環境管理に関する社会心理学的研究(3)—恋愛観におよぼす対異性-有能性と対異性-不安の影響— 総合文化研究所紀要(同志社女子大学), 19, 77-92.

- 諸井克英・浅野浩一・伊藤啓介・伊藤尚子・渡邊美穂子
1999 女子青年における対人有能性—同性関係と異性関係— 人文論集 (静岡大学人文学部), 50(1), 21-45.
- 宮戸美樹・上野行良 1996 ユーモアの支援的効果の検討—支援的ユーモア志向尺度の構成— 心理学研究, 67(4), 270-277.
- 中野佐知子・深田晃司 2012 テレビ番組に対する意識・評価の状況—2011年6月「番組総合調査」から— 放送研究と調査, 62(2), 22-33.
- 小川文弥 2005 コミュニケーション行為としてのテレビ視聴 田中義久・小川文弥 (編) 『テレビと日本人—「テレビ50年」と生活・文化・意識—』法政大学出版社 81-126頁
- 斎藤和志・中村雅彦 1987 対人的志向性尺度作成の試み 名古屋大学教育学部紀要 (教育心理学科), 34, 97-109.
- 佐藤義和 2011 『バラエティ番組がなくなる日—カリスマプロデューサーのお笑い「革命」論—』主婦の友新書
- 谷 忠邦・大坊郁夫 2008 ユーモアと社会心理学的変数との関連についての基礎的研究 対人社会心理学研究, 8, 129-137.
- 豊田秀樹 1998 『共分散構造分析入門 [入門編]—構造方程式モデリング—』朝倉書店
- 塚原涼太・樋口匡貴・深田博己 2009 ユーモア表出と自己受容, 攻撃性, 愛他性との関係 心理学研究, 80(4), 339-344.
- 塚原涼太・越 良子・樋口匡貴・深田博己 2009 なぜ人はユーモアを感じさせる言動をとるのか? 心理学研究, 80(5), 397-404.
- 上野行良 1992 ユーモア現象に関する諸研究とユーモアの分類化について 社会心理学研究, 7(2), 112-120.
- 上野行良 1993 ユーモアに対する態度と攻撃性及び愛他性との関係 心理学研究, 64(4), 247-254.
- 上野行良 2003 『ユーモアの心理学—人間関係とパーソナリティ—』サイエンス社
- Yip, J.A., & Martin, R.A. 2006 Sense of humor, emotional intelligence, and social competence. *Journal of Research in Personality*, 40, 1202-1208.

Appendix 1 ユーモア態度尺度における残余項目

[攻撃的ユーモア志向]

- hum_b_4 私は、きついことを言って他の人を笑うのは嫌いだ。
hum_c_1 私は、誰かを傷つけるような笑いは嫌いだ。
hum_c_4 私は、真面目な話をよくちやかす。

[遊戯的ユーモア志向]

- hum_a_2 私は、単純で分かりやすいユーモアが好きだ。
hum_a_5 私は、もっとまわりの人を笑わせたいと思う。
hum_a_8 私は、誰かの物真似を見るのが好きだ。
hum_b_2 私は、駄洒落を言うのが好きだ。

[支援的ユーモア志向]

- hum_a_6 私は、まわりの人を慰めるために、自分の失敗を面白可笑しく語ることがある。
hum_b_9 私は、あわてたり、騒いだりしている自分を滑稽に感じてまわりの人と笑うことがある。